

図画工作

画工作科における改訂のポイント

1 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について

(1) 効果的な学習の展開について

- 「知識及び技能」の習得, 「思考力, 判断力, 表現力等」の育成, 「学びに向かう力, 人間性等」の涵養を, 題材など内容や時間のまとまりを見通しながら, 主体的・対話的で深い学びの中で実現していきます。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」設定のポイント

- 学習の見通しや, 振り返りで自身の学びや変容を自覚できる場面の設定。
- 対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面の設定。
- 児童が考える場面と教師が教える場面の設定。

(3) 「主体的・対話的で深い学び」の「深い学び」のために

- 「見方・考え方」を, 習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせる。
- 自分の成長やよさ, 可能性などに気づき, 次の学習につなげられるようにする。
- 活動や作品から考えたことや感じたこと, 思ったことを伝えるなどの言語活動の充実させる。
- 育成を目指す資質・能力を明確にし, つくり, つくりかえ, つくるという学習過程を重視する。

2 「造形的な見方・考え方」について

造形的な見方・考え方とは, 「感性や想像力を働かせ, 対象や事象を, 形や色などの造形的な視点で捉え, 自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと」です。

造形的な見方・考え方

図画工作科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方

感性や想像力を働かせる

対象や事象を造形的な視点で捉える

自分としての意味や価値をつくりだす

造形的な視点は具体的には「形や色などの感じ」「形や色などの造形的な特徴」など, [共通事項](ア)と関連しており, 学習活動によって様々な内容が考えられる。

働かせる → 図画工作科の本質に迫る学習



授業や生活, 社会の中で働く力になるよう, 学年ごとに積み重ねて鍛えていく

3 「図画工作的活動」について

- 感性や想像力を働かせて, 表現したり鑑賞したりする資質・能力を相互に関連させながら育成できるような学習活動。
- 生活を美しく豊かにする造形や美術の働き, 美術文化についての理解を深めることができるような学習活動。
- 「A 表現」及び「B 鑑賞」のいずれの活動においても [共通事項] が深く関わり, 知識や思考力・判断力・表現力が豊かに育成され, 社会や実生活の中で生きて働く力にしてくれるような学習活動。

図画工作科における学習評価のポイント

1 図画工作科における評価の観点について

- 3つの柱で整理された育成を目指す資質・能力に対応するように、評価の観点も以下のように3観点に整理して示されています。

【旧】

評価の観点
造形への関心・意欲・態度
発想や構想の能力
創造的な技能
鑑賞の能力



【新】

評価の観点
知識・技能
思考・判断・表現
主体的に学習に取り組む態度

2 「知識・技能」の評価

(1) 「知識」の評価（〔共通事項〕アの指導）

形や色などの名前を覚えるような知識のみではなく、児童が、自分の感覚や行為を通して理解したもの。例えば、「形や色など」、「形や色の感じ」、「形や色などの造形的な特徴」などが活用できる「知識」として習得されたり、新たな学習の過程を経験することで更新されたりしているかを評価します。そこで、作品のみからの評価は難しく、活動の様子を観察して評価することが重要です。

(2) 「技能」の評価（従来の「創造的な技能」）

材料や用具を創意工夫して表す力、見通しを持って表す力を評価する。彫刻刀等を上手に使いこなす力ではないことに留意が必要です。

3 「思考・判断・表現」の評価

- 造形遊びにおいて、材料や場所などを基に自分のイメージをもちながら、造形的な活動を思い付くことや、形や色などを状況に合わせてどのように活動するか考えているか。
 - 絵や立体、工作において、感じたことや材料などを基に自分のイメージをもちながら、表現したいことを思い付いたり、形や色、用途などを考えてどのように表すか考えたりしているか。
 - 鑑賞において、自分のイメージをもちながら、作品や製作の過程、生活の中の造形などのよさや美しさ、表し方について感じ取るなど、自分の見方や感じ方を広げているか。
- ※ 活動ごとに「思考・判断・表現」は何を評価すればよいか、十分な理解が必要です。

4 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

(1) 「主体的に学習に取り組む態度」

ア 「知識・技能」「思考・判断・表現」に関する資質・能力の獲得に向け、粘り強い取組を行おうとしている様子进行评估します。

イ 「知識・技能」「思考・判断・表現」に関する資質・能力獲得に向け、自らの学習を調整しようとしている様子进行评估します。

(2) 観点別学習状況の評価にはなじまない部分

感性や思いやり等については個人内評価とし、数値として評価しません。しかしながら、図画工作の中では大切な部分であり、コメント等で児童に適切なフィードバックを行うことが重要です。

5 指導に相当する授業時数

- 各学年の内容において、(1)のイ及び(2)のイの指導に相当する授業時数については、工作に表すことの内容に相当する授業時数が、絵や立体に表すことの内容に相当する授業時数とおおよそ等しくなるように計画することになります。
- 「A 表現」及び「B 鑑賞」全体の内容の授業時数の配分については、各内容を十分に関連させ、内容に偏りの内容に全体の配当を考えて計画を立てるようにします。